

第33回 技術研究発表会

一般財団法人国土技術研究センター（JICE）は、今年で46周年を迎えます。この間JICEは、高度な建設技術に関する調査研究機関として社会に貢献して参りました。第33回となる技術研究発表会は、JICEの実施している研究や活動状況等を広く一般の方々に対してご紹介するために開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時

2019

7/5

金 13:00～

参加無料

定員 500名

特別講演 13:10～

気候と社会の変化に対応できる治水

国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長 小池 俊雄 氏

気候の変化によって豪雨の頻度とパターンが変化し、少子高齢化の急速な進行と水害リスクの認識力が低下して社会が脆弱化している。質の高い社会資本整備を進めるとともに、一人ひとりが「自らを守る力」を蓄え、「誰もが守られていると実感できる社会」の実現を目指すべきである。

研究課題発表 14:55～

河川、道路、都市・住宅・地域、技術・調達の各分野から6課題を発表

※プログラムは裏面参照

交流会 18:15～

会 場：カンファレンスルーム

参加費：1000円

■発表会・交流会 参加申し込み

JICEのHP ▶ <http://www.jice.or.jp/>

必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

※多数のご来場が予想されますので、参加ご希望の方はお早めにWEBにてお申し込み下さい。



・本技術研究発表会は、土木学会認定の継続教育（CPD）プログラムに認定（JSCE19-0473）されています。

会 場

イイノホール

東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル4F
TEL 03-3506-3251

- 東京メトロ 日比谷線・千代田線 「霞ヶ関」駅 C3出口 徒歩1分
- 東京メトロ 丸ノ内線 「霞ヶ関」駅 B2出口 徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線 「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分
- 都営地下鉄 三田線 「内幸町」駅 A7出口 徒歩3分



問い合わせ先

JICE 一般財団法人
国土技術研究センター
Japan Institute of Country-ology and Engineering

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-12-1（ニッセイ虎ノ門ビル）
TEL 03-4519-5006 FAX 03-4519-5016
E-mail gijutu-happyoukai@jice.or.jp

第33回 技術研究発表会プログラム

13:00 開 会

13:00～ 挨拶 理事長 甲村 謙友

特別講演 気候と社会の変化に対応できる治水

13:10～ 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長 小池 俊雄氏

14:40～ 休 憩

14:55～ ～グループの紹介～

「総合土砂管理計画策定の手引き」の作成

これまでに、全国8地域において総合土砂管理計画が策定され、総合土砂管理に関する調査・解析、土砂管理対策メニュー、モニタリング等の技術的知見や具体的事例が蓄積されてきている。

本発表では総合土砂管理計画の策定・推進をさらに支援するため、実務担当者の使いやすさを念頭に置いて、蓄積された技術的知見や具体的事例を取りまとめた「総合土砂管理計画策定の手引き」について報告する。

発表者 飯野 光則 研究主幹

河川政策
グループ

堤防の浸透に係る重要水防箇所の設定

河川堤防については水防上特に注意を要する箇所として、重要水防箇所を定めて水防管理団体に周知しているが、現在の重要水防箇所の評定基準は、堤防の形状を示す指標や変状現象そのものを示す指標が混在しており、必ずしも堤防の被災メカニズムと関連の深い指標となっていない。

本発表では被災メカニズムに着目した重要水防箇所の設定種別及びその指標の検討結果と、浸透に関する重要水防箇所の設定手法の見直し内容について報告する。

発表者 真野 友里子 研究員

15:50～ ～グループの紹介～

東京オリパラ競技大会のレガシーを見据えた建築物のバリアフリー化の取組み

2020年に開催が迫る東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを見据えた建築物のバリアフリー化の取組みが進められている。

本発表では、建築物の設計ガイドラインである「建築設計標準」の改正の取組みについて、2019年3月に公表された、車椅子使用者用客室の整備をはじめとする、高齢者、障害者等がより円滑に利用できるホテル又は旅館の環境整備を推進するための追補版の検討内容を中心に報告する。

発表者 沼尻 恵子 首席研究員

都市・住宅・
地域政策
グループ

16:20～ 休 憩

16:35～ ～グループの紹介～

歩行者・自転車を優先した道路交通の取組みについて

道路利用者のニーズが多様化し、住みやすい都市を形成するために歩行者・自転車を優先した道路交通の取組みが進められているところである。しかし、人と車との共存を図りつつ、どのように道路空間を再構築していくかについては課題も多い。

本発表では人と車を共存させる「シェアード・スペース」の考え方に着目し、ドイツ、オランダにおける実態調査結果を報告するとともに、国内事例と併せて日本への適用についての調査・研究結果を報告する。

発表者 竹本 由美 上席主任研究員

道路政策
グループ

「道の駅」の多様な機能展開について

道の駅は、平成5年の制度創設以来、全国に1,154駅(2019.3現在)登録されている。道の駅の持つ機能については、休憩機能、地域連携機能、情報発信機能の3つの他、災害時の支援機能についても着目された取組が進められているところである。

本発表では道の駅を活用した多様な取り組みを紹介する他、災害時支援に着目し、行政・民間における最近の取組事例を紹介しつつ、道の駅の災害時支援のあり方についての検討内容を中心に報告する。

発表者 秋山 聡 主任研究員

17:30～ ～グループの紹介～

受発注者双方からみた公共事業発注者の技術力確保に関する課題認識について

地方公共団体等の公共事業発注機関では、限られた体制で事業を遂行しており、発注業務を支える技術力の確保が大きな課題となっている。

本発表では土木学会「公共事業における技術力結集に関する研究小委員会」が実施した受注者・発注者双方に対するアンケートについて、それぞれの課題認識の一致点と相反点に着目して解析した結果から、発注者の技術力・マネジメント力の向上策及び補完方策等の方向性について提言・報告する。

発表者 笛田 俊治 研究主幹

技術・
調達政策
グループ

18:00～ 閉 会

18:15～ 交 流 会 (会場：カンファレンスルーム)